



皮膚科と救急

皮膚科で診察する病気の中には、早めの対処が望ましいものがあります。今回は救急処置や全身管理が必要な疾患を集めました。いつもとは違う、いつもよりも激しいと感じたら、まずは皮膚科専門医を受診して下さい。

1. けが、やけど



けが

汚い傷は破傷風になることがあります。2014年には破傷風126名の報告がありました。



やけど

重症の場合、血圧が下がったり、呼吸困難をおこすため、入院して全身管理が必要になります。

2. 動物咬傷



猫咬傷



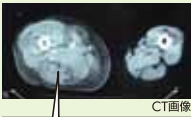
骨溶解像(骨髄炎)

動物の口にはバクテリウムなど多種の菌がついており、化膿しやすいのが特徴です。犬や猫に咬まれたら、骨髄炎を発症することがあります。

3. 感染症



ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群
細菌の毒素でやけどのような症状になります。



腫れている右大腿部は、筋肉にまで炎症がおよんでいます。

重症軟部組織感染症(人食いバクテリア症など)
A群溶血性レンサ球菌(溶連菌)などによる感染で、広範囲に筋肉にまで達します。急速に進行するために、緊急の対応が必要です。2014年には人食いバクテリア症273例の報告がありました。



牙痕

マムシ咬傷



日本蛇毒学術研究所提供

マムシ毒素により時間とともに症状が悪化します。入院治療が必要です。



マダニ刺咬症



刺し口

日本紅斑熱

マダニ刺咬後に、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群を発症することがあります。

4. アナフィラキシー



ハチに刺された後



小麦を食べて運動した後

アナフィラキシーは重症のアレルギー反応で、じんましん、血圧低下、呼吸困難などを伴い、死に至ることがあります。2011年の厚生労働省の統計では、年間71名が死亡し、その内訳は薬剤32名、ハチ16名、食物5名、不明18名となっています。

5. 薬疹



重症薬疹では、全身やけどのように皮膚や粘膜が障害を受けます。

6. 循環障害

動脈、静脈の流れが障害されるとおこります。



指輪による絞扼
リングカッターで指輪を除去しました。



閉塞性動脈硬化症



深部静脈血栓症
エコノミークラス症候群を生じることがあります。

7. 膠原病

皮膚筋炎と間質性肺炎



拡大画像

爪囲炎と指関節部の赤みから、皮膚筋炎と診断しました。その後、肺炎症状が急速に悪化しました。



胸部レントゲン写真：両肺下部に肺炎の像があります。

8. 血液疾患



血小板減少性紫斑病

紫斑が皮膚や粘膜に多発した場合、血小板の数が減少していることがあり、脳出血などの危険があります。



ATLL

(成人T細胞白血病・リンパ腫)
九州、沖縄地方に多い病気です。皮膚症状が軽度でも、全身状態が急速に悪化することがあります。

いい ひふ
11月12日は皮膚の日です